

## 第1回「手話言語の国際デー」ブルーライトアップ写真コンテスト 表彰式及び作品展示について

9月23日の「手話言語の国際デー」に合わせて実施した「ブルーライトアップ写真コンテスト」には、県内外から計71点の応募がありました。

このたび、このうち14点を入賞作品として決定し、表彰式及び作品展示を下記のとおり行います。

### 記

#### 1 表彰式

- (1) 日時 令和7年2月7日(金) 午前11時00分～12時00分(予定)
- (2) 会場 県庁昭和庁舎3階 正庁の間
- (3) 出席者
- ・受賞者 14名(別紙のとおり)
  - ・来賓
    - 群馬県議会議員 秋山 健太郎(健康福祉常任委員会委員長)
    - 群馬県議会議員 橋爪 洋介(群馬県聴覚障害者連盟顧問)
    - 群馬県議会議員 星名 建市(群馬県聴覚障害者連盟顧問)
  - ・主催者
    - 群馬県健康福祉部長 中島 高志
    - 群馬県聴覚障害者連盟理事長 早川 健一

#### 2 作品展示

- (1) 期間 令和7年2月3日(月) 午後3時～2月7日(金) 午後3時
- (2) 会場 県庁1階 県民ホール

#### (参考) 第1回ブルーライトアップ写真コンテストについて

- ・募集内容 「手話言語の国際デー」に合わせて実施した県内施設ブルーライトアップ画像
- ・募集期間 令和6年9月11日(水)～10月31日(木)
- ・応募総数 計71点

#### 【「手話言語の国際デー」について】

「手話言語の国際デー」は、2017年12月19日に国連総会で決議されました。決議文では、手話言語が音声言語と対等であることを認め、ろう者の人権が完全に保障されるよう国連加盟国が社会全体で手話言語についての意識を高める手段を講じることを促進するとされています。

#### 【ブルーライトアップについて】

ブルー(青色)は、世界ろう連盟が1951年の設立以来、使用し続けている色で、「ブルーリボン」は、社会における平等と各国の手話言語の認知を何世紀にもわたって求め続けた、ろうコミュニティの取組のシンボルとして使用されてきました。

(別紙)

## 第1回「手話言語の国際デー」ブルーライトアップ写真コンテスト入賞者一覧

※入賞作品14点(応募総数71点)

(敬称略)

区分(人数、賞金又は賞品)	氏名	撮影場所
群馬県知事賞 (1名、賞金3万円)	井野 幸代	群馬県庁 昭和庁舎(前橋市)
群馬県議会議長賞 (1名、賞金2万円)	渡辺 馨	日本トーター グリーンドーム前橋(前橋市)
手話言語の国際デー賞 [群馬県聴覚障害者連盟理事長賞] (2名、賞金5千円)	嶺山 則恵	草津温泉 湯畑(草津町)
	御供 良一	楽山園(甘楽町)
プロフォトセンター賞 (5名、記念品)	秋山 博昭	旧時報鐘楼(伊勢崎市)
	山田 浩臣	日本トーター グリーンドーム前橋(前橋市) 臨江閣(前橋市)
	御供 春翔	道の駅 ららん藤岡(藤岡市)
	青木 康彦	日本トーター グリーンドーム前橋(前橋市)
	徳永 利彦	臨江閣(前橋市)
群馬県写真材料商組合長賞 (5名、記念品)	佐藤 功	高崎白衣大観音(高崎市)
	坂本 昇	群馬県庁 昭和庁舎(前橋市)
	井野 次郎	群馬県庁 昭和庁舎(前橋市)
	松本 民江	臨江閣(前橋市)
	篠原 朝夫	日本トーター グリーンドーム前橋(前橋市)